

立をみたわけです。今後、漁業外交の推進、未利用資源の開発、水産物の高度利用などの諸施策が行われると考えられますが、遠洋漁業のマイナス分を沿岸漁業が相当部分引受けることになり、その振興は他の施策とともに国家的課題となるものと考えられます。

それでは、各国の二百カイリ漁業専管水域設定による本県水産業の受ける影響はどのようなものでしょうか。

本県漁業への影響

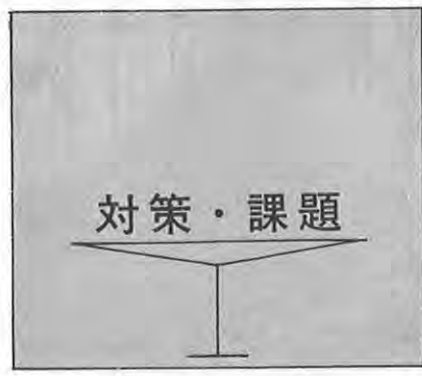
本県の海面漁業漁獲量(海面養殖業は除く)は、五十年統計によれば八万八千トン、生産額百七十億円で、このうち海外漁場における漁獲量は千八百トン(二パーセント)、生産額十億円(六パーセント)程度と見込まれますが、海外漁場のほとんどが外国の二百カイリ以内で、主な漁場は韓国、中国、台湾、フィリピン、アメリカ領マリアナ諸島の沿岸海域で、現時点では影響は少ないように思われます。しかし、韓国、中国等の動きによつては、操業の制約、入漁料の支払いによる漁業経営コストの増大等をも含めて相当程度の影響があるものと考えられます。現に四月下旬、本県の漁船がインドネシア海軍に領海侵犯の疑いで連行されるという事件が起っており、今後海外漁場における操業のむづかしさを物語っているようです。

一方、生産金額において、一般海面漁

業と肩を並べるまでに成長した海面養殖業のうち、特に魚類養殖業の餌料(イワシやサバなどの生えきやスケトウダラ等の魚粉が入った配合餌料)の価格上昇や確保が問題となつて来るものと思われ

ます。また、スケトウダラ、ホッケなどの漁獲に伴う水産物製品の原料確保難と価格上昇は必至であり、このことは、すでに最近のスケトウダラ身原料の高騰などによつて実証されつつあります。

このような情勢は、漁業者、水産加工業者、流通業者等の関係者のみならず、一般市民の毎日の台所につながる身近で、しかも重要な問題であると考えられます。



本県水産業の主体が沿岸漁業であるため、対策の重点を沿岸漁業振興にかんず

く、つくる漁業と呼ばれる栽培漁業の推進に努めています。施策の柱は次のとおりです。

(一) 生産面の対策

① 漁場づくりー沿岸漁場整備開発事業

漁場づくりについては、昭和五十一年度から発足した沿岸漁場整備開発事業を中核として積極的に進めて行く方針です。すなわち、漁船漁業の盛んな天草海、不知火海域を中心に魚礁(コンクリートブロック製のいわゆる魚のアパート)を大規模に投入して一本釣りなどの漁場を造成することになっています。特に西海岸の大型魚礁は全国的にも優良魚礁漁場として中央でも認められているので、これをさらに補強するとともに、従来の大型魚礁の十倍程度の規模を有する人工魚礁を適地に配置して、回遊するマダイなどの魚群を誘導して漁獲する構想です。人工魚礁については、五十二年調査を行い、五十三年度から設置事業を実施する計画です。

次に全国一の生産をあげているアサリをさらにふやし、名実ともに日本一の特産地とするため、アサリの大規模増殖場開発を菊池川尻で進めています。年二回、春と秋にうまれたアサリの稚貝は波間を浮遊してやがて干潟上に沈着しますが、この沈着しやすい場所造りと、大きな成育場の造成を図るもので、今年

度実験漁場をつくり、つばさに調査して五十三年度以降、事業を実施する予定です。アサリは味噌汁や、バター焼きなど、おいしくて親しみ深い貝であり、海中のプランクトンを餌として成長するので、餌をやる必要もなく、漁場造成、漁場管理が適切ならば、大増産の可能性も有しており、まことに二百カイリ時代にふさわしい動物タンパクといえるのではないでしようか。

次に同じ貝類でも天草海域の岩礁地帯などに生そくしているアワビについて、適地に玄武岩やコンクリートブロックのアワビ礁を投入して人工藻場をつくらせて、アワビの保育園をつくり、これに、水産試験場がつくった人工種苗の稚貝を放流して、歩留りを良くし、アワビ漁場をつくらうとするものです。昭和五十一年度は牛深市で実施、五十二年度は若北町で実施する予定です。アワビのみならず、人工種苗生産との関連で適当な魚種について事業効果があるものについては、この事業を拡大したいと考えています。

次に今後、漁業従事者の高齢化対策や漁業後継者対策を考える場合、地先の海面で比較的安定した経営が望める養殖業が着目されています。天草、芦北地方を中心として適地も多いので、消波堤などを設置して、生産性の高い優秀な養殖漁場の造成を図ることにしています。五十二年に御所浦地区の養殖漁場造

成についての調査を実施し、五十三年度以降事業を実施する計画です。ただし魚類養殖の場合、特にイワシやサバなどの生えきの残りがすなどで汚染されることが多いので、養殖密度に留意するとともに

に、内水面養殖やマダイ養殖にも使われている配合餌料の利用を検討する必要があります。今まで漁場造成事業について述べてきましたが、漁場造成とともに、漁場復旧

コンブを取り出し、酒としょう油で味を整えてネギを入れます。さばの朝鮮風焼

さばは三枚におろし、四つに切りま

す。ピーマンとネギは細く切り、んにくはすりおろし、赤唐辛子は種子を出して小口に切ります。ごま

油、しょう油、酒を合わせた中にさばの切り身を入れ、時々上下に返しながら

一時間ほど漬け込み、金網

かフライパンで焼き、野菜

をさっと炒めて盛りつけま



○いわしの南蛮漬 (三杯酢漬)
いわしの腹わたを取り、軽く塩をして一時間ほどおき、小麦粉又は片栗粉をつけてカラッと揚げ、すぐに三杯酢に漬けます。

○いわしのチャンコ鍋
いわしは、頭と腹わたを除き強めに塩をして、一時間ほどおいてブツ切りにします。コンニャクはゆで

て、油揚げとともに小口切りにし、人参、大根は短冊に、里芋はゆでてヌメリを取り、長ネギは二センチほどに切りま

さばの船場汁
さばは三枚におろし、強目に塩を振り二、三時間おきます。さばは食べやすい大きさに切り、熱湯をくぐらせます。大根は厚めの短冊に切り、ネギは小口に切ります。鍋にさばと大根を入れ、適量の水とコンブを加え火にかけ、酒としょう油で味つけします。

以上ですが、一度おためしください。

もまた極めて重要な事業です。沿岸漁場整備開発事業においては、漁場保全事業という点で、主として干潟漁場における耕うん、清掃などを行うものです。ピニールなどの廃棄物の堆積やカキ、ホトトギス等の発生によって生産力の低下している漁場の復旧を図るものであり、五十二年度は熊本市外四市町が事業主体となつて実施する予定です。

② 魚づくりー栽培漁業振興施設設備事業 (栽培漁業センター建設)

魚づくり、つまり有用魚貝類の種苗生産の拠点として、栽培漁業センターを牛深市に建設中であり、本年度末には完成し、五十三年度から操業開始の予定です。操業が始まれば五十七年度を目標としてマダイ三百万尾、インダイ六十万尾、ヒラメ、カレイ類三十万尾、アワビ五十万個等が生産され、水産試験研究機関の整備による新規魚種の開発等と相まって、栽培漁業の推進に大きい役割を果たすようになるものと考えます。

③ 漁港

漁港は、漁船の根拠地であり、荷捌き、保管、冷蔵、加工等の流通加工基地であり、かつ漁村環境整備の中核です。第六次漁港整備計画は、昭和五十二年

度から発足することとなり、漁港修築事業(牛深漁港ほか十三港)等の事業を実施することとしています。特に牛深漁港に

④ 漁業近代化施設等

沿岸漁業の施設近代化及び効率化を図るため、第二次沿岸漁業構造改善事業として、天草北西地域、不知火地域、有明地域について、荷さばき所、保管作業場、重油タンク等の各種施設の整備を図ることとしています。

⑤ その他

以上は、主として施設づくりを中心にして記しましたが、このほか漁業金融対策、漁業調整、漁業取締りなど、漁業生産の円滑化を図るため総合的な施策の推進を図ってまいります。

消費者へのお願い!!

二百カイリ時代の到来とともに、スケトウなどの漁獲減は必至であることから、イワシ、サバなどの近海魚の活用が重要課題となつてきています。食用にまわることの少ないこれらの魚は栄養価、ビタミン類も豊富ですので、なるべく食膳に供するとともに、魚全般についてむだのない食べ方をするなど、県民皆さん方の御理解と御協力をお願ひします。